

令和6(2024)年度 全国学力・学習状況調査の結果について

本年4月18日に実施しました、文部科学省「全国学力・学習状況調査」の分析結果について、以下のように報告させていただきます。この調査結果を分析することで、本校生徒の実態や課題を明確にし、学力向上のための学習指導の改善に活かしていきたいと考えております。

※今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

【教科に関する調査より】

『国語』

成果課題	<ul style="list-style-type: none">○漢字は日頃の漢字テストの成果がでており、正解率が高い。○短歌に用いられている表現技法も何回も繰り返し学習しているので正答率は高かった。■表現力が弱い。■自分の考えを書く力が弱い。■読解力がついていない。
指導の重点	<ul style="list-style-type: none">・文章を読んで、理解する学習を積み重ねていく。・作文の授業も取り入れ、自分の考えを書く力をつける。

『数学』

成果課題	<ul style="list-style-type: none">○「数と式」の分野に関する問題において、府・全国平均を上回っており、特に「等式の変形」に関して大きく上回っている。また、「関数」や「データの活用」の分野に関して府平均を上回っていること、その中でも「短答式」の正答率が高いことから授業の初めに取り組んでいる『ダッシュ80』の成果が出ていると思われる。○無解答率はほとんどの問題で府・全国平均を下回っており、最後まで問題に取り組む姿勢が見られる。■「図形」の分野は全て府・全国平均を下回っており、特に「証明」に関しての正答率が低く、論理的な思考の面が課題であると考えられる。■「記述式」の無解答率はやや高く、府・全国平均を上回るものがあったことから、自信の無い解答や中途半端な状態での解答を避ける様子が見られる。■「データの活用」や「関数」の分野に関しても、「記述式」の問題の正答率が府・全国に対して下回ることから、苦手意識が感じられる。
指導の重点	<ul style="list-style-type: none">・短時間で様々な分野の問題にふれることができる『ダッシュ80』のような取り組みは継続していきたい。その中で「記述式」の問題に少しでも解答する力をつけたい。・論理的な思考が身につくように、筋道を立てて問題に取り組むように普段から意識させていきたい。

【生徒質問調査より】

☆見えてくる全体的な傾向

成果

生徒質問紙より、「自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の問いに94%の生徒が、また「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」の問いに73%の生徒が肯定的な回答をし、府・全国の平均を上回っています。主体的・対話的で深い学びをめざした授業改善を進めてきた本校の取り組みの成果がうかがえます。また、授業でのICT機器の活用率においても、府・全国を上回る結果となりました。

文部科学省・国立教育政策研究所の調査(R6年度)によりますと、『主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、課題の解決に取り組む学習活動を行っている学校ほど、そのような学習場面でのICT機器の活用頻度が高いと回答しており、その両方に取り組んだ学校グループの児童生徒は、それ以外の学校グループに比べて、各教科の正答率が高い』という結果が出ております。

引き続き、ペアワークやグループワーク、ICT機器を活用した学習など学びの形態を工夫し、自分の考えを整理し発表する場面や文章にまとめる時間を確保した授業づくりを展開していきたいと考えております。

課題と改善策

「学習した内容を、次の学習につなげられているか」という項目においては、府・全国の平均を少し下回っております。本校では、各教科、授業の中で学習を「振り返る」活動を積極的に取り入れており、本校の昨年度結果からは大きく改善が見られました。「振り返り」のさらなる充実に向けて、今後も教員の研修会などを実施し、学校全体で取り組んでいく必要があると考えております。

家庭学習においては、学習時間をある程度確保している傾向にありますが、「電子メディア機器の使用(SNS・動画・ゲーム)が『4時間以上』」と答えた生徒の割合が非常に高くなっています。使用についての約束事を守っている生徒は多いものの、電子メディア機器への接触の長時間化は、昼夜逆転などの生活リズムへ影響を及ぼす可能性があるだけでなく依存傾向にもつながるため、実態を生徒・ご家庭とも共有し、電子メディア機器の使い方を含め、生活習慣を見直す機会を設けることが必要だと考えております。

☆項目ごとの数値（特徴的なもの）

<学校生活について>

- 「学校に行くのは楽しい」と答えた割合が高い
(峰中85% 府83% 国83%)
- 「仲間の意見を大切にし、協力しながら課題解決にとりくんでいる」と答えた割合が高い
(峰中94% 府91% 国92%)
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と答えた割合が高い
(峰中97% 府95% 国96%)

<学習について>

- 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」と答えた割合が高い
(峰中**80%** 府80% 国79%)
- 「授業で自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と答えた割合が高い
(峰中**94%** 府89% 国92%)
- 「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と答えた割合が高い
(峰中**73%** 府63% 国65%)
- 「授業で PC、タブレットなどの ICT 機器を週3回以上使用している」と答えた割合が高い
(峰中**85%** 府57% 国64%)
- 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」と答えた割合は前年度調査結果より高くなっている
(峰中 **R5** 69% → 峰中 **R6** **77%**)

<自身について>

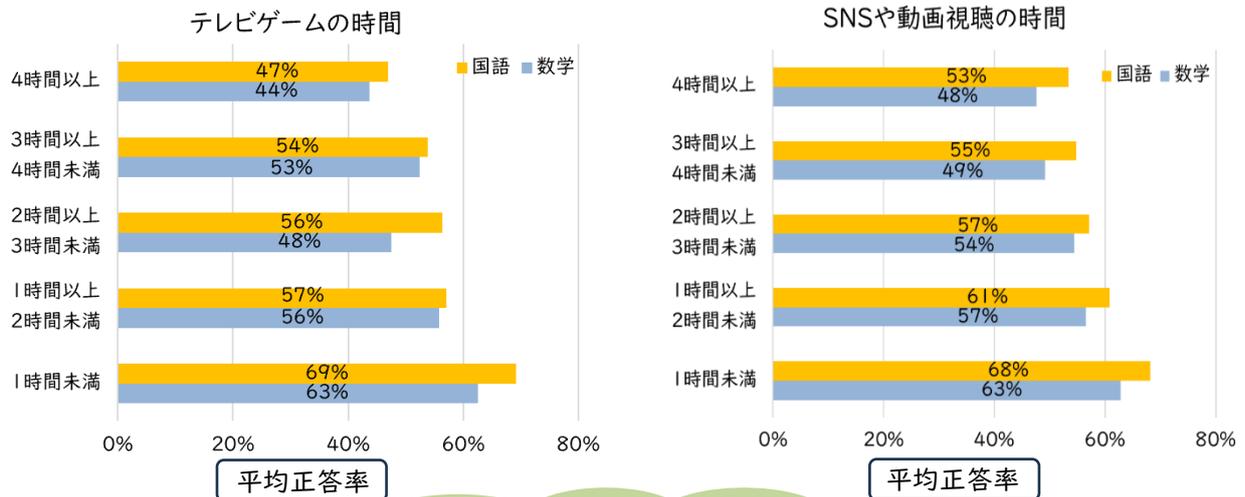
- 「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えた割合が高い
(峰中**96%** 府95% 国95%)
- 「スマートフォンや PC の使い方について、家の人と約束したことを守っている」と答えた割合が高い(峰中**74%** 府73% 国72%)
- 「自分には良いところがあると思う」と答えた割合は前年度調査結果より高くなっている
(峰中 **R5** 75% → 峰中 **R6** **80%**)
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と答えた割合は前年度調査結果より高くなっている(峰中 **R5** 60% → 峰中 **R6** **70%**)

課題と思われるもの

- 「毎日同じぐらいの時刻に寝ていますか」の問いに、『あてはまる』と答えた割合が低い
(峰中**73%** 府80% 国81%)
- 「1日当たりどれぐらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」の問いに、『4時間以上』と答えた割合が高い
(峰中**25%** 府22% 国16%)
- 「1日当たりどれぐらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)」の問いに、『4時間以上』と答えた割合が高い
(峰中**34%** 府25% 国18%)
- 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」と答えた割合が低い。
(峰中**77%** 府80% 国78%)

【生徒質問調査（峰塚中学校） クロス集計の結果より】

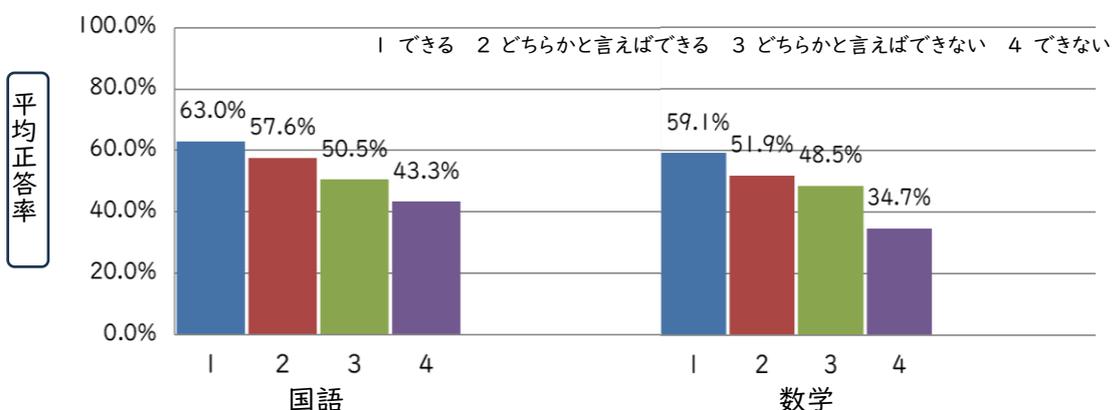
質問調査「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」及び「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話 やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）」の回答状況と「教科に関する調査」における各教科の正答率とのクロス集計では、以下のような結果が示されました。



テレビゲームや SNS、動画視聴の時間が短い生徒ほど正答率が高くなる傾向があります！「ゲーム機、パソコン、スマホを使わないことが良い」ということではなく、使う時間の目安、使い方を考えることが大切です。



質問調査「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の回答の状況と「教科に関する調査」における各教科の正答率とのクロス集計では、以下のような結果が示されました。



学んだことを「見直したり、次の学習につなげたりする」ことができる生徒ほど正答率が高くなる傾向があります。授業での「振り返り」の活用は効果的！振り返りの中身や方法にもこだわっていく必要があります。

